開　催　趣　旨

『平家物語』は琵琶法師によって平曲で語られただけでなく、多様な芸能の素材としても広く受け入れられてきました。特に、能、狂言、浄瑠璃、歌舞伎といった伝統芸能において、『平家物語』は繰り返し取り上げられるなど、現代に至るまで日本文化の中に息づいています。

本シンポジウム「『平家物語』の芸能と佐渡―うたいもの・かたりものの世界―」では、『平家物語』が持つ芸能としての側面と、その芸能が佐渡という文化空間にどのように根付いているのかを探究します。研究者や平家琵琶の実演家による講演やディスカッションを通して、『平家物語』の芸能としての魅力やその地域的な展開について多角的に議論します。

『平家物語』が日本文化に与えた影響とその継承の在り方を再評価し、新たな視点を提供することを目指す本シンポジウムに、多くの方々のご参加を心よりお待ち申し上げます。

講　師　紹　介

中本 真人氏　新潟大学人文学部准教授

1981年 奈良県生まれ。
主な著作に『なぜ神楽は応仁の乱を乗り越えられたのか』（新典社、2021年）、『内侍所御神楽と歌謡』（武蔵野書院、2020年）、『新潟医科大学の俳人教授たち』（新潟日報メディアネット、2023年）など。

菅野 扶美氏　共立女子短期大学名誉教授

1954年 東京都生まれ。
主な著作に「神に向かう歌―神楽・今様―」（『聖なる声　和歌にひそむ力』三弥井書店、2011年）、「後白河院のもう一人の息子―冷泉教成と山科御影堂・御影―」（『共立女子短期大学文科紀要』66号、2023年1月）など。

鈴木 孝庸氏　新潟大学名誉教授、平家琵琶奏者

1947年 秋田県生まれ。
主な著作に『平曲と平家物語』（知泉書館、2007年）、『平家を語る琵琶法師』（新潟日報事業社、2013年）、『平家物語節附語り本』（孫暘と共編、國立臺灣大學圖書館、2018年）など。